

『大学に行く』 ちゅうこと

自分

特 技 趣 味
自分の将来像
楽しめること
大人への階段
他人とのぶつかり合い
ポキャブラリー

自分は何者かということ
やりたい仕事

訓練

機 転
得意分野の発見
得意分野を伸ばす
順応力
不得意分野の発見
不足する力の習得

テキパキ能力

ネットワーク

縦のつながり
頭のいいやつ
一芸に秀でたやつ
尊敬できる変わり者
よくわからないけど
すごいやつ
価値観の異なるやつ
違う地方で育ったやつ

生きる力のあゆませつ

準備

壁・自分の限界
社会常識
アルバイト
世の中や企業の仕組み
試しにやってみる

社交性

初対面の繰り返し
挨拶の大事さ
気持ちを伝えられる言葉
意見の異なるやつとの付き合い方

知識

試験が最終目的ではない勉強
大事な情報はどの本のどこに書いてあるかということ
大事なのは記憶力ではないということ
知識という根拠をもって
意見を言うこと、聞くこと

研究

世界をリードする研究
未来を切り開く研究
地球を守る研究

おん先生

大学っちゅうとこの過ごし方 イチモクおかれればより楽しい

大学っちゅうものを魅力づけるのは、要は教授だ。イコール研究室。ゼミを選んで自分の専門に特化するの3年から、とは言っても、2年の後半になっていきなりゼミ選びをしても自分の思うところには入れない。

面白そうだなと思う講義は聴きに行く。面白い教授はいないかと、先輩や仲間、雑誌や専門書などにアンテナを張り巡らせる。そういった情報を集めつつ早めに研究室に入出入りする。そのためには教授やその周りの人と何かしら接触を持つことが必要なわけで、講義の終わりに質問に行ったりするのも手取り早いし、そこまでなくても毎回一番前で講義を受けるくらいのことで充分教授の印象には残ると思う。こびる必要はないので、あくまで自分が興味を持てる講義をしてる教授、興味を持てるようなレポートや書籍を書いている教授に絞って少

いい。研究室には、助
しているところ
で、1年のうちにそういう人に顔と名
るくらいになれば成功だ。今どきそん
ずなのでかわいがってもらえるだろう。
らせてくる人もいるだろうけど、そこは適当
ばよい。

大学生生活

大学生の特権

しずつ接点を作っていけば
手として院生などが
学生のフォローを
がほとんどなの
前を覚えてもらえ
な学生は少ないは
雑用とか無理やりや
にできる範囲で手伝え

大学生のときと社会人になってからと一番違うのは、大学生というだけで大人が大目に見てくれてかわいがってくれるということだ。大学4年のときに手塚先生と藤子先生のところに押しかけて行った。手塚プロに入れるようになるまでには何日もかかったし、藤子プロに入れてもらうにも何時間もねばってようやくのことだったけど、中に入れてもらってからは皆さん信じられないくらい親切にしてくださった。その経験が後々までずいぶん役に立ったし、そこで出会った方々にはその後偶然出会うようなことが度々あってその都度またご好意にあずかった。

研究の現場でも同じだと思う。面白そうな研究者に会うための努力をしたとして、邪見に扱われることはそんなにないだろう。お話をうかがうまでは無理かもしれないが、何か見せてもらうことくらいはできるかもしれないし、その周りの方々と知己を

得て何かしらの収穫を得るくらいのことはできるだろう。

環境というのは特に興味の範囲が広いように思うけど、科学雑誌だけでもかなりの種類が出るし、建築土木や環境、バイオ&ケミカル、経済誌とかにも関係する記事が出ることはあるだろう。インターネットやTVからも情報は取れるがしょせんは無料で手に入るレベルの情報であって、役立つ情報を手に入れるために一番頼りになるのはやはり図書館だ。

大学の図書館では、必要と判断されれば高い本も買ってくれる。そういう大学生ゆえの役得を最大限に利用して、興味のある本にはどんどん目を通して知識を広げるべきだ。書籍でなくても、学術雑誌、専門雑誌とかどんどん入れてもらうといい。

専門分野以外にも、読んでるだけで情報通になれる「日経流通新聞」なんていう、世の中の新しいトレンドはなんでも扱う面白い新聞もある。とにかくいろいろの目を通して早いうちにお気に入りを見つければ、同世代の学生と比べてかなりの情報通になれるはずだ。まあ、何でもいいので人より抜きん出た知識を持つてるジャンルが自分の中にある、ってことが一番大事と思う。

というような話は当たり前なので、ここではあえてSF小説を薦めておく。未来社会を描いたものを多く読むことで、脳みその中のイメージが膨らむと思う。映画や漫画と比べてイメージが曖昧なのがいい。自分で勝手にイメージできるからね。SFでは、ヒューゴー賞とネビュラ賞という、映画のアカデミー賞のようなものがある。受賞作品をいくつか読んでみると中には気に入る作家も出てくるだろう。個人的には、ジェイムズ・P・ホーガン、ブライアン・W・オールディスあたりの未来観がすごいと思う。定番でロバート・A・ハインラインとか。

あと、イチモク置かれるという意味では、古典だろうなあ。最近はブームで漫画でもどんどん出てるが、「罪と罰」「レ・ミゼラブル」「戦争と平和」とか。分厚い本が多いがとりあえず1作完読すれば、何百年も生き残ってきた凄みがわかるはず。何百年も前の人間も今の人間も、考えてることや抱えてる悩みがそれほど変わらなくてとに驚くはずだ。

大学生のうちに せめてやっておきたいこと

高校生・大学生のうちに楽しみながらやることで、就職に有利になるようなことがあれば素敵だね。

その一番がパソコンだ。自分でパソコンを組み立てたり、何台かのパソコンをネットワークでつないだりできれば、就職に100%有利ってとまではいかないかもしれないけど、少なくとも友達に一目置かれるくらいのことにはなるだろう。就職してから頼りにされる場面も出てくるはず。ブラインドタッチ&早打ちができれば、キミの実力は誰の目から見ても明らかになってくるからその辺りからチャレンジしたい。できるってだけでかっこいいよね。

あと、マイクロソフトのオフィス（ワード、エクセル）も早めにバリバリに使いこなせるようになっておきたい。どこに就職するにしても絶対必要なものだし、できるとできないとでは入社してからのキミの評価に差が出る。もちろん、就職前に学校でも役立つのは間違いないし、仲間内で大きな顔もできるでしょ。「パソコン選びたいから付き合って」なんて思わぬ人からのお誘いを受けたりするかもよ。

マイクロソフトでは、各ソフト毎に「アプリケーションスペシャリスト」という資格を設けている。独学でも受かるレベルなので、試しに狙ってみるといいよ。資格があれば、これは間違いなく就職で有利になる。

さて、大学での話をしよう。大学ってところは実に自由なところで、**他の学部の授業はもちろんのこと、他の大学の授業まで受けることができる。**話がアホほど面白い教授がどの大学にも何人かはいるので、噂が聞こえて来たらそういう授業を勝手に受けに行くといい。社会人になってから役立つ科目として、例えば「統計学(数百人にアンケートするだけで何千万人もの考えや好みを断定する)」「社会心理学(人間はどのような状況に置かれればどういう行動をとる生き物なのか、というのを研究する)」なんてのがある。マーケティング(市場原理)系の知識は汎用性が高いのでオススメだ。高校生のときに乏しい知識を元を選んで学部や学科にこだわらず、1、2年の間は見聞を広げるために学校や学友を使い倒す、というのが楽しいことでもあり、将来に役立つことでもある。

学生のうちにやろうBest3

役立つその1 マイクロソフトの Word Excel

基本中の基本のソフトなので、できて当たり前と見なされる。特にワードは必須。エクセルについては、そんなに複雑な計算式までできなくていいけど、基本は押さえておきたい。就職に有利というよりは、できないと不利になる。

役立つその2 マイクロソフトの PowerPoint

お客さんに商品やイベントの説明をしたり、会社の中で企画書の説明をしたり、これができると重宝される。意外に簡単なソフトなので、ワードと一緒に勉強。できると就職に多少は有利だろうな。

役立つその3 マイクロソフトの Access

お客さんの情報管理や商品管理をするためのデータベースソフト。ちょっと難しいソフトだけど、自分でパソコンソフトを作るような形で使うのでパソコンのプログラムの勉強にもなる。同種のソフトでファイルメーカープロというものもある。このあたりのソフトが使えれば就職の確率は確実にアップだ。

その他にもパソコンからみて押さえたいのが、画像ファイルの種類や特性。あとちょっとした加工など。これはフォトショップなどで覚える。

おまけ的に、音声ファイルの種類&特性、ムービーファイルの種類&特性、データ圧縮&解凍、それと、パソコン本体や周辺機器の取り扱い知識、ウィンドウズの取り扱い知識とかはあった方がいいわなあ。

逆にアピールしても無駄なのが、ブログ、プロフ、みたいなアマチュア活動だ。

パソコンからみでなくても、社会的信用のある機関からの受賞歴や国家資格(またはそれに準ずる資格)なんてのは当然バリバリにアピールすべきだ。

取るべき資格はこれだ!

**マイクロソフト・アプリケーションスペシャリスト
マイクロソフト・オフィススペシャリスト**

大学生なら知ってないと…、な『企業』っちゅうとこの話

■ 会社にもいろんな種類がある!

ボくらが普段目にしてる仕事と言えば、例えばハンバーガーショップやコンビニ、洋服屋に本屋やビデオ店、といったものだろう。そういうふうには直接お客さんと接してサービスを提供する仕事は大きなくりでサービス業と呼ばれる。(食べ物を提供するの飲食業、物を売るのは物販というふうに細かい分類がある)

しかし、それは世の中にある仕事全体の中のごく一部だ。ビジネス街という言葉があるでしょ。そのビジネス街に足を運べば、びっくりするくらい多くの人働いてるんだなということがすぐわかる。当たり前なことだけど、そんな人の数だけ仕事もあって、仕事の種類もめちゃくちゃたくさんある。

世の中の多くの人、会社に所属して働いている。最初に言ったお店の人たちも、そのほとんどがそのお店を営む会社に所属する会社員だ。正社員、アルバイト・パート、派遣、働き方はいろいろだけど多くの人、会社と契約して働く会社員だ。

さて、ここでクイズ。「流通業」ってのはどんな会社?

運送屋さん、をイメージする人が多いだろうけど、それは間違い。実は、デパートやスーパーなどの大型の販売店をそう呼ぶんだ。他にも、ボくらが日常的に考えているのと違う呼び方をされてる会社がけっこうあるよ。こういう「〇〇業」という会社の分類の仕方を「業種」と言う。これと仕事の種類である「職種」とくっつけて「業・職種」というのが仕事を選ぶとっかかりの基準になるので理解はしておこう。

※ちなみに運送屋さんや宅配便の会社は運輸業(または運送業)

流通 デパート・スーパーなど	メーカー 商品を作る会社	卸<small>おろし</small> メーカーからの商品を小売店に流す会社	金融 銀行、保険会社、証券会社など	マスコミ テレビ、新聞、雑誌、広告代理店など
外食 レストラン、ファーストフードなど	IT インターネットやパソコンソフトなどデジタル系の会社	サービス 業種分類では飲食・物販以外のサービス提供をする会社のこと	業種の分け方はけっこう曖昧で重なり合ったりもするので分類を知るのが大事なのではない。でも自分が興味を持ってることが何業なのかくらいは知っておきたいね。	

※分類はもっといっぱいある。詳しくはインターネットで「業種」で検索してちょうだい

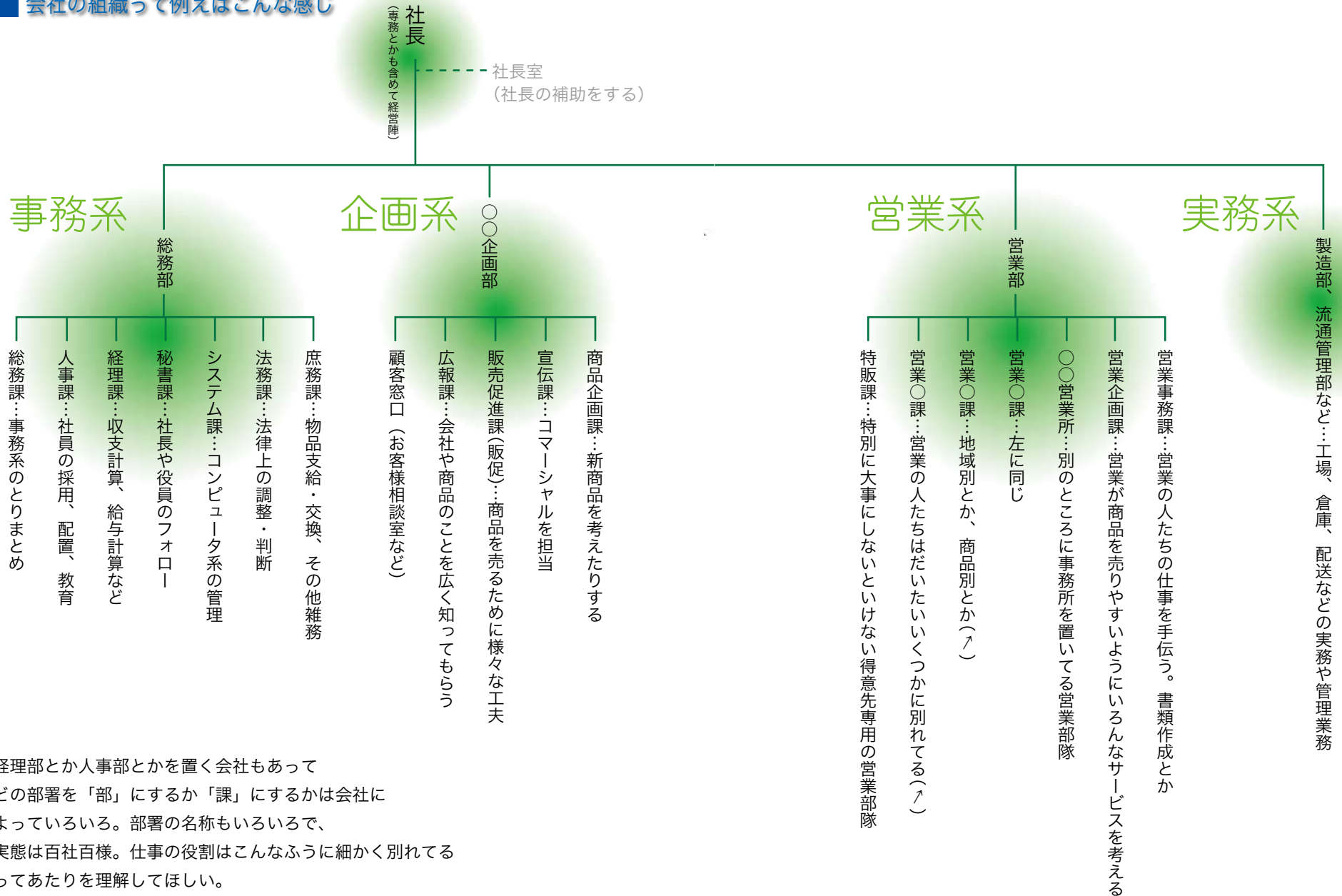
■ 部長、局長、常務、一番偉いのは誰?

さて、実際に会社に入ったとする。するとそこにはいろんなルールがある。そのひとつが役職だ。会社の中では、仕事は自分より役職が上の人の指示に従って行く。上の役職の人のことを「上司(じょうし)」と言い、特に自分が直接指示してもらう立場にある人を「直属の上司」と言う。直属ってのは同じ部署(ぶしょ/次のページで説明する「部」や「課」のこと)に所属しているという意味。役職が上がっていくことを出世というのは知ってると思うけど、会社員は出世するとそのぶん権限が大きくなり、責任が重くなる。給料もその分上がる。



※会社によって多少ルールは違うよ

会社の組織って例えばこんな感じ



経理部とか人事部とかを置く会社もあって
 どの部署を「部」にするか「課」にするかは会社によ
 っている。部署の名称もいろいろで、
 実態は百社百様。仕事の役割はこんなふうに細かく別れて
 いてあたりを理解してほしい。

※他にも会社によっていろいろ部署がある

大学生になれば考えておきたい 『将来』のこと 少しでも早く考えだせばそれだけ有利だ

■ 就職ってどうなの？

2008年の世界不況以前に、フリーターがよく言っていたこと。

「就職したやつより俺の方がよく稼いでるで」

「バイトの方が気楽やわ、いつでも休めるもん」

これはウソだ。世間に対して無知なだけ。

大学卒の人が就職して1年目にもらう給料は、平均すると20万円弱。そこから税金や健康保険、年金とかいろいろ引かれると手元に残るのは15万円弱になる。

アルバイトだと引かれるのは税金だけ。月20日働けば20万以上にはなるから、手元には18万円くらいは残る。多い？ とにかくみんなそこしか見ていない。

会社は、実は、保険や年金の半分を負担してくれてる。他にも福利厚生と言って社員のために給料以外のいろんな負担をしてくれてる。アルバイトだとほとんどの場合、そんな負担はしてくれない。

給料とは別にボーナスもある。業績のいい会社だと1回で給料2ヶ月分くらい。年間だと4ヶ月分にもなる。業績が悪くても1ヶ月分くらいはもらえるはずだ。

有給休暇といって、休んでもちゃんと給料がもらえる制度もある。年間20日くらい。20日連続で休ませてくれるような会社はまずないけど。アルバイトでも長く勤めれば法律で有給休暇はもらえることになってるけど、実際にはよほどちゃんとした会社でないとそんなことはさせてくれない。

さて、30才くらいになると給料はどうなってるだろう？

8年目とすると、20万円だった給料は30万円前後にはなってる。年収で400万円は超えてるかもね。もしそこで辞めてももうそこそこの退職金ももらえるはずだ。アルバイトでは？ 時給は少しは上がってるだろう。でも年収は300万円には届かないだろうなあ。ちょこちょこ休んだりしてると200万ちょっとってところかな。

では、新卒で就職するのと、後から就職するのでは何か差があるのだろうか？

■ 新卒で就職して得なこと

大学を卒業してしばらくフリーター生活を送ったとする。で、何年かして就職を考える。そういう余裕があってもいいよねえ。…と思う人も多いただろうけど、「派遣切り」のニュースではっきりしてきたように、いったん正社員の道からドロップアウトすると、正社員の道に戻るのはめっちゃくちゃ大変だ。よほどの技術や経験がないと面接にさえたどりつけないという現実が待っている。

新卒で入社していいことって他にもある。一番いいのは、会社がいろんなことを教えてくれるってこと。仕事のことはもちろん、マナーとか、対外的な付き合い方とかいろんなこと。少なくとも数ヶ月、親切な会社だと1年くらいかけて研修とか、必要な資格を取得するための勉強とか、いろいろ助けてくれる。

これが中途採用だとそうはいかない。即戦力で当たり前だからねえ。

「社会人経験がないならこんなこと知らんで当たり前やな」と思われるのと「その年になってこんなこともできへんのかいな」と思われるのの差は大きいよお。

■ 早く始めるほど有利なことってある

例えば漫画家になるなら、若いうちにデビューするってのが普通。遅くとも23、4才ではデビューしてないとつらい。年齢が高くなると出版社に持って行っても原稿をちゃんと見てもらえなかったりする。

漫画は極端な例だけど、建築デザイナーとか看護師とか学校の先生とか、公務員とか専門の学校を卒業しないと入れなかったり、資格試験に受からないといけなかったり(受験するのに年齢制限がある資格も多いよ)、若いうちに決断しないと入れない職業って実は多いのだ。学校や資格の問題がなくても、年とともになにくくなる職業ってのももちろんある。雑誌とかに原稿を書くライターやカメラマン、放送作家なんかもそうだね。工場で働くにしろ、レストランで働くにしろ、あるていど若いうちでないと新たに始めるのはかなりつらいことだ。つらいだけならまだいいが、採用されないって現実もあるだろうね。

少しでも早くから、なりたい職業、もしかしたらなれるかもしれない職業、なってもいいかなって職業をある程度考えて、それなりの準備をしていく必要がある。

そういうのが何も見つからないなら、せめてパソコンに詳しくなる、とか、本をいっぱい読むとか、何かしておかないと、とりあえずそのときできる仕事にありつくというだけの人になってしまうかよ。自己責任というやつだね。

■ 最後に

(保護者の方、先生から伝えたい言葉を)

発行日 2010年9月

編集人 林しょうじ (アルバイトニュース・アン関西版元編集長)

発行所 minibook.jp

無断転載、無断引用は禁じます。